

施設ボランティアプログラム 体験レポート

Bunkyo Gakuin University, Graduate Business School of Welfare Healthcare Services



interview | 福祉医療マネジメント研究科

フシュウ
付楯さん

東京都中央区の新川エリアに位置する「マイホーム新川」。最寄りの八丁堀駅から徒歩5分とアクセス良好。隅田川の穏やかな流れに寄り添う、都心の利便性と落ち着いた環境を兼ね備えた高齢者複合施設です。

2024年度春に福祉医療マネジメント研究科に入学した中国出身の留学生付楯（フシュウ）さん。付さんは、現在この施設のデイサービスでボランティアとして活動しています。今回は、付さんのインタビューを通じて、現場の様子とボランティアプログラムの特色を紹介します。



ボランティア活動の内容



—付さん、まずは施設でのボランティア活動について教えてください。具体的にどのようなことを行っているのですか？

ボランティアは週に一度のペースで行っています。まずは室内の掃除から始まり、午前中は、お茶出しの手伝いをしています。午後になると、利用者の方々の昼食の配膳や下膳のお手伝いをします。食事は、皆さんが毎日楽しみにしている時間ですから、私はただ食器を並べるだけでなく、会話を通じて食卓の雰囲気盛り上げるよう心掛けています。昼食後には、施設内の飾りつけの手伝いもしています。

—すでに作業に慣れている様子が伝わってきます。とはいえ、付さんにとってここは外国の福祉施設。日本語でのコミュニケーションに困難はありませんか？

日本語、特に高齢の方が話す日本語は、難しいですね。敬語表現と、くだけた表現が混ざったり、主語や目的語が省略されたり、外国人にはピンとこない遠回しな表現があったり。お年寄り独特の言い回しやイントネーションもあるようです。認知症の方もいらっしゃるの、個々の利用者の個性に合わせたコミュニケーションを取るよう努めていますが、それでも時々戸惑うことはあります。

言語コミュニケーションと感情の共有

—高齢者の方々の日本語のやりとりに少し苦勞もあるようですね。言葉を介した実際のやりとりについて、どのような工夫を心掛けていますか？

高齢の方とのコミュニケーションでは、ゆっくり、はっきり話すことや簡単な言葉を使うことを心掛けています。それでも、日本語の難しさや言葉の壁は大きな挑戦ですね。ただ、一緒に活動する日本人ボランティアの方やデイサービスのスタッフ、高齢者の皆さまが優しく接して下さるおかげで、安心して活動を行うことができます。



一言葉以外に、利用者の方々との信頼関係を築くために、どのようなことをしていますか？

コミュニケーションは言葉だけではなく、感情を通じた交流も大切です。最近、施設で「夏祭り」を行ったのですが、私はレクリエーションとして宝くじを準備しました。皆さんと一緒に楽しめるように工夫し、全体で喜びや驚きを共有することができました。中国にもお年寄りを敬う文化があるので、こうした時間を共に過ごすことは私自身にとっても大きな喜びです。利用者の方々が少しでも元気になってくれることが、私のやりがいです。

中国と日本の福祉医療制度の違い

ボランティア活動を通じて、日本と中国の福祉医療制度の違いを感じることはありましたか？

はい。日本の福祉医療制度は充実していて、中国の制度と比較すると、多くの点で学ぶべきことがあると感じます。特に、日本の介護保険制度や高齢者福祉の実践が中国に導入されれば、非常に有益だと考えています。将来、中国に帰国した際には、日本で学んできたことを活かして、母国の高齢者福祉の発展に貢献したいですね。

施設長からのメッセージ



付さんは、利用者さんに対しても丁寧に接し、職員ともよいコミュニケーションをとってくれています。外国籍の方が利用者さんと直接関わりや接点を持つことで、日本人のスタッフよりも、コミュニケーションが活性化することもあります。外国籍の方の存在が、施設を日々利用する利用者さんの「日常」のなかで、良い刺激になりますね。

付さんが日本で苦労して学んでいることが、国境を越えた未来の現場で役立つよう、私たちも協力していきたいと思っています。

マイホーム新川 施設長 北川達三氏

学生プロフィール

氏名	付 楫（フ シュウ）（2024年度春季入学）
出身国	中国 四川省
休日の過ごし方	友人と食事を楽しんだり、テーマパークや美術館、イベントに足を運んで過ごしています。中でも、国立西洋美術館と三鷹の森ジブリ美術館がお気に入りです。
日本の好きな場所	京都の嵐山です。自然と歴史を感じられる場所で、毎年紅葉の季節に訪れています。
学びの歩み	中国の職業技術学院にて薬学を修めた後、日本語を習得するために来日。その後、都内の大学院医学研究科で研究生として経験を積み、2024年春に福祉医療マネジメント研究科へと進学しました。薬学の知識を基盤に、医療と福祉の管理運営まで学びの幅を広げています。
履修科目の一例	「経営学Ⅰ・Ⅱ」、「疫学公衆衛生学特論」、「福祉医療の戦略経営Ⅰ・Ⅱ」等 付さんは、福祉医療の戦略的な管理運営を学ぶため、幅広い科目を履修しています。「経営学Ⅰ・Ⅱ」では、医療施設の運営に必要な経営知識を学び、「福祉医療の戦略経営Ⅰ・Ⅱ」では、ボランティア体験も活かし、実際の現場での課題解決に取り組む力を養っています。



中央区立特別養護老人ホーム「マイホーム新川」

所在地：東京都中央区新川2-27-3

<https://www.san-ikukai.or.jp/chuo/shinkawa/>

東京都中央区にある「マイホーム新川」は、1995年に開設された区立の高齢者複合施設で、開設時より社会福祉法人賛育会が受託・運営しています。

家族のような温かいケアを提供し、医師と看護師が夜間も常駐する安心の環境を整えています。施設では、特別養護老人ホームの他、通所介護（デイサービス）や訪問介護、認知症対応型サービスも提供しており、季節のイベントや多彩なクラブ活動を通じて、利用者の豊かな生活を支えています。地域に根ざした、もうひとつの「我が家」として、安心と温もりあるサービスを提供しています。

